

# 学術的文章における引用

早稲田大学ライティング・センター

## 5. 引用する際の留意点

- 1) 一般常識となっている事柄は、原典にあたって引用する必要はない。どこまでが一般常識でどこまでが著者独自の考えであるかの判断は、個々の状況に応じて行なう。
- 2) 孫引きすることに意味がない限り、孫引きを避けて原典にあたる。
- 3) 概括、要約をする時は、著者の意図にできるだけ忠実に要約する。文献中のキーワードを一つでも引用すると、意味のずれを最低限、防ぐことができる。
- 4) 学術的な信憑性を考えて文献を選ぶ。例えば、「Wikipedia」や「Yahoo!知恵袋」は誰でも記入できるウェブサイトであり、原則として引用するのは学術的に不適切である。
- 5) 引用部分に筆者が言葉を補う場合には、補う言葉を[ ]で括弧に加える。
- 6) 文献の著者には敬称をつけない。
- 7) 学問分野・領域によって書式の規定がある。ゼミや研究室、研究科、学会の規定を調べ、決められた書式に従う。

## 6. 剽窃を避けるための留意点

剽窃とは、出所を明示しないで他の文献中の文章を書き写したり、他者の考えを自分の考えのように書いたりすることである。

- 1) 文献内容に言及する場合は、必ず出典を示す。インターネットからの引用も同様に扱う。
- 2) 文献内容を要約して示す際には、原典の中のキーワードを他の語句に置き換えて文章の語順や論展開を元のままに見せることも剽窃と見なされる。
- 3) 一度に複数の文献を参照して、勝手につなぎあわせない。個々の文献ごとに引用し、それぞれの出典を示す。

### 参考文献

- 佐渡島紗織・オリベイラ、ディエゴ・嶋田大海・デルグレゴ、ニコラス（2020）『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』大修館書店
- 佐渡島紗織・吉野亜矢子（2021）『これから研究を書くひとのためのガイドブック—ライティングの挑戦 15 週間—（第 2 版）』ひつじ書房

Copyright © 2023 Waseda University All Rights Reserved.

## 1. 引用とは

引用とは、参照した文章をそのまま書き写して「」（引用符）で括弧で自分の文章に取り込むことである（直接引用）。参照した文章を要約して自分の文章に取り込むこともある（間接引用）。どちらの場合も参照した文献の出典を示す。（佐渡島・吉野，2021）

## 2. なぜ引用するのか

- 1) 他者の論や他者が収集したデータを、著者や出所を挙げて示し、尊重して扱う（知的所有権を守る）ことになる。
- 2) どこからどこまでが他者の論やデータで、どこからどこまでが筆者のものか、区別が明瞭になる。
- 3) 他者の論や他者が収集したデータを元のまま見せるため、読者は解釈が適切かを確認できる。

## 3. 引用する際の原則

- 1) 一字一句（句読点を含めて）正確に書き写す。ただし、「」の中では、「」は『』に変わる。漢数字を算用数字に、またその逆を、断りなしに変えることはある。
- 2) 3 行以下の文章を引用する場合には、本文中に「」で括弧する。3 行を超えたらブロック引用にする。
- 3) 次のいずれかの方式を用いる。

著者年方式で書く場合… 本文中に、著者名、文献発行年、引用ページを示す。参考文献リストで、文献の詳しい書誌情報を示す。

脚注方式で書く場合… 本文中に、注番号を振る。ページ下方または本文の後に注を記し、注の中で著者名、文献発行年、引用ページを記す。参考文献リストで、文献の詳しい書誌情報を示す。

※本パンフレットでは、著者年方式は American Psychological Association が制定する APA 書式に準ずる。

#### 4. 引用を行なう目的と方法

##### 1) 先行する文献を紹介するとき

###### 【著者年方式】

環境倫理の観点から、動物の権利を唱える人がいる(Singer 1975;ファインバーグ 1990)。

###### 参考文献

Singer, P. (1975). *Animal liberation: A new ethics for our treatment of animals*. New York Review/Random House.  
ファインバーグ, J. (Feinberg, Joel)(1990)「動物と生まれざる世代のさまざまな権利」(鶴木奎治郎訳)『現代思想』18巻11号, pp.118–142

###### 【脚注方式】

環境倫理の観点から、動物の権利を唱える人がいる<sup>(1)</sup>。

(1) Singer 1975、ファインバーグ 1990

###### 参考文献

Singer, P. (1975). *Animal liberation: A new ethics for our treatment of animals*. New York Review/Random House.  
ファインバーグ, J. (Feinberg, Joel)(1990)「動物と生まれざる世代のさまざまな権利」(鶴木奎治郎訳)『現代思想』18巻11号, pp.118–142

##### 2) 文献の一部分(語句や文)を論に組み込んで用いるとき

###### 【著者年方式】

田村(1986)は、「近代市民社会とそれ以前の中世社会や古代社会とは、社会秩序に関する考え方が根本的にちがう」(p. 365)という。

###### 参考文献

田村正勝(1986)『社会科学のための哲学』行人社

###### 【脚注方式】

田村は、「近代市民社会とそれ以前の中世社会や古代社会とは、社会秩序に関する考え方が根本的にちがう」<sup>(1)</sup>という。

(1) 田村 1986、p. 365

###### 参考文献

田村正勝(1986)『社会科学のための哲学』行人社

3) 先行する文献の特定箇所を詳しく解釈し、論を進めるとき  
例えば、次のような目的がある。※以下は佐渡島他(2020)の一部

- ① 同じ立場の主張を引用して自分の主張を強めたいとき
- ② 他者を批判して自分の主張を補強したいとき
- ③ 自分が示した主張に合う事例を見せたいとき
- ④ 自分が見せてきた事例を一般化するとき
- ⑤ 異なる視点を示したいとき

###### 【著者年方式】ブロック引用例

一般にマーケティングは、消費者ニーズに適応する活動だと考えられている。この考えに対して、石井(2004)は以下のように疑問を呈する。

消費者ニーズあるいは欲望は、本当にマーケティングの出発点になりうるだろうか。(中略)そもそも消費者に、果たして「モノに向かう主体の目的志向」であるところの、客観的あるいはそれ自体独立した「消費者欲望」という存在があると仮定してよいのだろうか。(下線は筆者、p. 25)

石井は、「客観的あるいはそれ自体独立した『消費者欲望』という存在がある」のかと指摘する。たしかに、消費者は自分が何を欲しいかを常に明確に自覚しているわけではない。企業の広告を見ることによって、以前はなかったニーズが生じることもある。

###### 参考文献

石井淳蔵(2004)『マーケティングの神話』岩波書店

脚注方式は省略